

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202254		
法人名	株式会社 イッセイ		
事業所名	グループホーム平和		
所在地	静岡県静岡市清水区西久保1丁目13-26		
自己評価作成日	平成21年11月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット		
所在地	静岡市葵区千代田3丁目11番43-6号		
訪問調査日	平成21年12月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「認知症になっても住み慣れた町で最期まで人として全うしたい」ご家族やご本人の希望があれば、最期までの看取りを行っております。開所後4年目 開所当初に入所した利用者様が10人此処で安楽に安全に暮らしています。高齢化が進みケア量が増え重視される中で日中は、オムツに頼らず個々の排泄パターンに合わせてトイレでの排泄を行っています。口腔ケアに関しても毎食後個々の口腔内の状況似合わせたケアが行われています。元気な方は、ホーム前のスーパーや薬屋さんに買い物に出かけたり「町内会のお祭りやS型デイサービスに参加し地域のお年寄りや住民と慣れ親しんだ関係を築いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域福祉に関する環境が、以前から整っている清水区で地域密着型サービスの施設を運営するには、自治会(住民)をはじめ、地域包括等、地域の諸インフラとの密接な疎通が大切です。利用者の3分の2の方々の家族が付近に住まり、家族の面会の数も多く、地域に根ざした施設であると感じます。広い敷地に平屋建ての2ユニットは安全面の工夫も凝らされ、防災関係でも地域の方々からの支援が整備されつつあるようです。自己評価表に記された文言が、手に取るように確認できる職員各位、一丸になっての介護支援は、家族からの信頼の裏づけでもあります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症になっても住み慣れた町で最期まで人として暮らせるように支援していく。看取りを行なっているので年々重度化している為ケア量が増えている。	認知症であっても、人として尊び、向かい合うという事が職員に徹底されているようで、その行動を随所に感ずることが出来ました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会活動や地域のお祭り・エス型デイサービスに参加し地域に溶け込んでいる。	管理者及びその家族も地域の住民であるので、地域の方々からの支援も厚く、良い関係が保たれています。	地域との良好な関係が保たれている中において、地域住民へ施設のニュースを発信出来ないかを検討していただければと期待します。広報誌の製作・配布も一例です。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議や地域の人が集まる会に認知症の話をしていただき理解を深めるようにしているが、まだまだ自分とは関係のない話題と思っている人が多い現実がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、サービスの実際、状況等の話し合いや地域に溶け込んでいける話をしていて、評価に対する取り組み状況についての話は、今後の課題としたい。	地域包括、自治会、圏域会議のメンバー、ボランティア等が運営推進会議へ参加し、グループホームへの理解が深まっていました。議題の中では、災害時の問題が地域の各位から何回か出され課題にもなっていました。	民生委員ほか地域の方々参加により運営推進会議への関心が深まり、席上、民生委から災害時の救済に関する積極的な支援の検討が提案されています。本件、更なる推進を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市当局からは実地指導や集団指導時に又、介護相談員が、毎月来所され事業所の実情やサービスの取り組み問題のある利用者の様子についてお話をいただきご指導をいただくときもある。	管理者、計画作成者、担当者が利用者情報を正確且つ適切に共有しているため、行政や諸機関との対応も円滑に保たれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、夜間のみ防犯目的で施錠されている。日中は、鍵がかかっていないので人の出入り時にセンサー音で職員が、来訪者、利用者様の出入りを確認している。夜間は、ベッドからの立ち上がり懸念される場合は、椅子を降りあがり場所に設置	身体拘束をしないケアに関しては、利用者との契約書、事業所運営規程にも、その文言を確認できます。また利用者居室内も利用者各位に応じた生活の安全が工夫され、職員全員に徹底されている事が理解できます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者から職員に暴力行為が時々は見受けられるが、職員から利用者様に手を挙げることは決してしてはいけないことは全員自覚している。言葉の暴力に対してもお互い注意し直している。利用者様の皮膚の状態について打撲痕、内出血斑について報告をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年は、成年後見人制度についての話は、職員にしているが、理解にはいたっていない。今後は、研修の課題としたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、ホームの方針、家族の希望、ホームへの理解については、十分に話し同意していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン説明時やご家族が来所されたおりに最近の様子を職員や管理者が話したり毎月介護記録のコピーを送りご要望やご意見を何時でも言ってくださいようお願いしている。	介護記録等は、そのコピーを家族宛に送付され、家族からの意見も吸収され易いようになっています。ケアプランの説明訪問時、担当者会議、家族の来訪日等、機会ある毎に意見をいただく努力が理解できます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者に関しての意見提案は毎日の申し送りや担当者会議時に聞くように就業環境についてはミーティング時に話す場を設けているが、日中のミーティングは、利用者を同席させているが、落ち着かない利用者に職員が、集中できず聞き漏らしが合ったりと落ち着かず話合いの時間を別に設けるか思案中である。	申し送りや担当者会議等、適切に実施されていますが、特に、家族へ利用者の適切な情報を伝える事が出来るよう管理者、職員がミーティング時に深く意見交換を行なう事が、職場従事者同志の絆の深まりになっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況の把握を充分に行い給与・昇給・ボーナス査定に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修や介護福祉士取得事前講習会参加・リスクマネジメントなどの研修に参加する機会を用意し、職員の意欲向上を体制を考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流は、機会がなく今研修費用の補助をいただけるといことで他事業所と協力して研修を行っていく計画がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設サービス計画書に沿った介護ができるよう努めている。本人が混乱無くホームで暮らせるよう声掛けに心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は、本人の混乱は勿論のこと家族の介護疲労、ストレス、入所させる自責の念等を十分に聞き入れるようにし家族来所時は積極的に声をかけ入所中の様子を話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談や見学の際は、ホームの方針や環境について説明させていただき他業者への見学も勧めている。利用者や家族の希望に沿った業者に入所を検討できる立場であることも説明させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の支度、掃除、洗濯たみ等の家事作業でできることは、一緒にやっていたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が、来所されたおりに家族団欒和気藹藹のムードになるよう努めている。洋服や日用品など必要なものについてはご家族に連絡させていただいている。初めての病院受診時に管理者が同行し治療の必要性について医師と一緒に話を聞いたり待合の間に入所までの家族の気持ち・葛藤を聞いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	音楽療法で回想法を取り入れ利用者さんとおして昔話に話が咲いていることがある。各居室前の表札は、馴染みの住所になっている利用者もいる。	利用者全員で行う音楽療法のシナリオの中には、回想法が取り入れられたり、居室の表札には利用者の想いが込められた住所等を明記、ユニークなアイデアが各所に採り入れられていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう食事作りや行事等の参加は、声をかけてフロアで行っている。音楽療法は、特にコミュニケーションをとれる唯一の場である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昨年死去した利用者の家族が、一周忌に顔を出してくださり命日に電話させていただき思い出話をさせていただいた。又、入所中から夕方の台所の片付けに来所されていた利用者のご家族が死亡退所されたあとも続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出、買い物の希望を聞いて一緒に出かける。普段は、外出を強く拒否する利用者に対しては、無理に外に連れ出さず必要に迫られた買い物があつた際はチャンスを見逃さず外に連れ出すことに成功している。	左記のほか、年2回の遠足時、その行き先への配慮。その時の外食に関する配慮等。臨機応変に実施されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の相談時や家族が来所された折などに情報を頂き職員に流している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の心身の状態で担当者会議で一日の過ごし方を決めさせていただいているが、意思決定力が残存されている利用者は、マイペースを大事にすごされている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議、ミーティング等で多くのスタッフの意見や情報をもらう場を設けている。	主として、管理者が問題を提起して職員から吸い上げた意見を集約する方法が定着してきたようです。夜間、落ち着いた時間に行なって成果をあげているとの事でした。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	引継ぎノートの活用、口頭での引き継ぎで情報を共有する。担当者会議、ミーティングで出た情報から解決策として実践できるプランに結びつくこともある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者は、施設より2分程でこれるところに住居があり又、一部2階になっている場所に社長が常駐しており夜間早朝などの時間外であっても柔軟に対応できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣組との連携や地域S型デイサービスの利用、地域の商店を利用することで地域に浸透した関係づくりに勤めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在14名の方が 訪問診療医による定期的な往診、緊急時の24時間緊急体制のもとで医療ケアが行われている。看護師である管理者が、医師と信頼関係を持ち家族や本人との希望や病状についての説明を希望される場合の橋渡しも行っている。又、他利用者にかんしても緊急時の対応については、訪問診療医の往診、看取りを希望されている	管理者が看護師でもある事で、各かかりつけ医と適切な情報を共有でき、信頼関係が築かれているので、よい環境下で支援されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で一般状態の把握(定期的なバイタルサインチェック)に努め異変時は、看護師である管理者に早めに報告し管理者から訪問診療医に相談し急変を防止している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	心身の状態が悪く入院した利用者はいない。骨折で入院した利用者は、病院関係者から情報や退院時の受け入れ時期についての相談は、密に行っていた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の相談は、時間を掛けて行うようになっている。又終身でお預かりする方針であることを伝え最期をどうしたいか家族に意向を伺っておく。	施設への入所希望者は重度化の傾向にありますが、その現状を受け入れられる環境が整っていました。特に、職員は在宅での見取りの研修まで受けていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年は、三角巾を使った応急手当を2回行なっている。急変、事故発生時の対応については、職員間でマニュアルを作成している。今後は、実践力が伴うように再度指導の必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は、年2回は行なうようになっている。今年8月には、地域の民生委員、自治会長、ボランティア、地域住民が、防災訓練を見学、ご指導をいただいている。	災害時に備えての備蓄は完備され、地域からの支援も良い方向に向かっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレに誘導するときは、なるべく傍で誘うようにしている。	事業所理念に基いた、適切な介護技術を、各所で見受ける事が出来ました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の利用者様との話し合いの中でその利用者が希望されていることを聞きだすだけ希望にそえるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の個性・性格を理解、受け入れ押し付けにならない程度のお手伝いをお願いしている。利用者様によっては、1日お部屋で過ごしたりフロアで洗濯をたんだり新聞折を自ら進んでやることもある。野菜作りや得意なことを引きだせるように努めたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の着替えでは、季節や当日の寒暖の差、組合せ等を考慮し着るものを支援している。散髪は、1～2ヶ月に1度出張床屋さんにお断髪をお願いし全員散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、カット、盛り付け、個々の状態に合わせてできる範囲でお願いしている。	要介護3・4・5の利用者が増えてきている中で、各利用者の状況に合わせた配膳、出来る限り全員で楽しく食事が出来るようなマンツーマンの食事支援等が実施されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は、1日1000から1500ミリリットルを目安に水分、栄養の面でカロリーメイト、オレンジジュース、ポカリスエット等個々の飲める水分を検討している。食事は、個々の動き、希望する量、食べられる形態で刻み、ミキサー、トロミ等の工夫をして全量摂取を目指している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの目的は、職員全員周知しており毎食後利用者個々の力量で行なっている。一部介助、全介助の利用者もいる。個々の口腔内の状態ではミント、歯間ブラシを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレの誘導時間を決めて尿意・便意の訴えがなくても誘導している。個々の排泄パターンを把握し利用者にあった誘導も取り入れている。	時間ごとの個人記録に基き、事業所理念に沿った、適切な声掛け等により排泄の自立支援に努めていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表により体調管理しており個々の排泄を確認し下剤内服の処置がされている。食事面では、野菜中心で繊維を多く摂取して食品を選んでいる。運動量の少ない人には、短い距離でも体を動かす声掛けを行なっている。水分量もおやつ、入浴後とこまめに行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自ら入浴を希望される利用者は、少なく個々の状態で入浴日数を決めさせていただいている。時間帯は、夕方の食事前が多く夕食後の入浴については、利用者の希望を聞くようにはしている。	週2回以上の入浴または清拭。利用者本人の入浴希望時間に入浴することができる事が重要事項説明書に文言化されている通り、適切に運営されていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子で1日過ごされている利用者や個々の状態に応じて休息できる支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は、看護師である管理者が行い定期的に薬学講座を県の薬剤師に開催してもらい薬への理解を深めていく努力をしている。介護者は、個々の利用者様の病気、内服している薬の作用・副作用について理解する努力をしている。特に便秘時に下剤内服後の反応便については、看護師に報告し指示を仰ぐようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	車椅子に乗車していても手仕事ができる利用者は、食器拭きを自分の仕事として几帳面に綺麗に拭いてくださる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日買い物に出かけている。時々、車を出して大型スーパーに行くこともある。又、お祭りや地区の神社のお祭りの出し物でカラオケに参加される利用者もいる。	利用者本人の現況を良く把握したうえで、毎日の買い物の手伝いや地域の行事への参加ができるよう支援していました。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者は、お金を所持しておらず帰宅願望の強い利用者が、財布に入ったお金を色々な場所にしまいこんでは、無くなったと大騒ぎすることがあり周囲への影響を考えると考慮したい問題である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは、支援している。しかし帰宅願望の強い利用者が一日に何度も同じところに電話をしており電話を私物化してしまうので対応に苦慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭には、芝、やまぼうしと言う落葉樹が植えられ季節を感じられるようになっている。台所は、対面式で目配りが出来るような構造になっている。浴室は、浴、脱衣室共に暖房完備、トイレも明るく手摺りも充実している。フロアー、一部居室に天窓があり採光、風通しを自している	全館平屋構造の2ユニットは面積も広く床暖房が施されていて、ホールからは中庭が眺められるようになっています。施設内の採光などにも、斬新な工夫が凝らされ居室をはじめ、全体が穏やかで、安らぎが感じられる施設です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2ユニットが平屋構造で利用者が、自由に行き来でき居室とは、別のユニットで日中過ごしている利用者もいる。ソファの配置もありくつろぐことが出来るスペースが出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、使い慣れた家具等を自由に持ち込んでいただいている。但し利用者の中には、重たい家具を移動したり引き出しの中に排泄物を入れてしまうため軽量の家具や家具を移動するためにごちゃごちゃと不必要なものまで置かないようにしている。	居室毎に利用者の想いを大切にした、キメ細かい配慮がなされ、安全な生活が確保されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの手摺りは、車椅子～便座への移乗を自立できる位置に設置されている。トイレや居室の入り口に表札を置いて場所がわからなくなっても活字を追いながら場所を探せるようにしてある。		